

振り返り

今回原爆についての新聞をみんなで書きました。私はその新聞で、原爆の遺品を紹介しました。

小学生たちに原爆の遺品を見てもらって、当時の出来事がどのくらいの被害だったのか、そして原爆後、どのような形で残っているのかを知って、この出来事を覚えてほしいなと思いました。

修学旅行で沢山、原爆のことについて知って、学ぶ事ができ、それを新聞に書いて、知らない人にもこの原爆のことについて知って欲しかったです。今回の新聞を作つてみて、たくさんの人達に、原爆のことについて忘れてはいけないという事を知つてほしいなと思いました。

私は今回、修学旅行に行って学んだこと、原爆が投下された時の広島に暮らしていた人々の遺品などを記事にまとめました。写真を用いることで原爆の恐ろしさが鮮明に伝わったと思います。

原爆の被害にあった方々の遺品を記事にすることで当たり前に暮らしていた人々の生活が原爆によって一瞬で奪われてしまったということを伝えたかったです。また、日本人だけが被害を受けたというわけではなく、原爆を日本に投下したアメリカの人々も真珠湾攻撃などでたくさんの大好きな人々をなくしているので、日本だけが被害者ではないということを修学旅行と事後学習を通して学びました。

今回のNIEの授業で、私たちが年下の子たち（小学生）に、戦争や原爆に関する考え方、広島に行った感想を伝えるのは二回目となりました。今回は、新聞を通して伝えなければいけなかつたので、少し難しかつたですが、自分達の班が伝えたいことはきちんと書けたかなと思います。発表する当日、私たちの班は欠席している人が多く、期間が短かつたので最終確認などができるていないのに加え、私は私が担当した記事ではない記事の発表をすることになりました。書いてあることを読み、小学生たちに伝えましたが、うまく伝わっている気がしませんでした。私が伝えたかったことは、愛徳学園中学校に行かなくて他の中学校に行つても、戦争のこと、原子爆弾のことを学ぶと思うので、それまでに自分なりのそれに対する考え方を持って、学んだ後と比較してほしいこと、戦争のことをちゃんと知って、私たちのように中3になったときやそれ以外の時でも、後輩に語り継いでいけるようになってほしいことでした。自分が担当した記事はそのことを伝わるように内容を書いていたのですが、今回発表した記事は、当日に詳しく見たので、伝えたい内容を自分の中で整理するのが間に合わなくて、うまく伝えられなかつたのだと思ひます。これから発表する時は短い期間でも予想外のハプニングが起こつても、「伝える」ことが一番大切なので、ちゃんと計画して備えておかなければならぬなと思いました。中三の1学期の後半くらいから始まって、正直その時は戦争のこと、原爆投下のことを過去のこととしか思つていなかつたけれど、当時の人の気持ちを知ること、現地を訪れることによって、テレビで見た時とは違う印象で、戦争について深く考えることができました。

私はグループで新聞に載せるイラストを描いていました。言ったことはありませんが私は遅筆だし、「イラストを書くんだから」とメンバーの子が記事の作成を免除してくれたりと、申し訳ない思いと色々と最初は「本当にこれだけで良いのかな」と不安になりましたが、最終的に、他のメンバーにも褒めてもらえたし、あんなに真面目になって絵を描くのも久しぶりだったので、個人的には良かったと思っています。

イラストは敵同士だった日本とイギリスの国民が手を取り合う寸前を写した様な構図です。過去に日英同盟と名の付く同盟があった国同士だから、また再び手を取り合う姿は心に来るのではないかと思います。

元々、このイラストは、枢軸国の日本と連合国のアメリカにしようと思っていたのですが、いざ服装を考えてみると、和装の日本人にTシャツジーンズのアメリカ人を組み合わせるのは絵面が少し悪かったので、カッコいいしということでスーツを着てシルクハットを被ったイギリス人に変更しました。日本人との対比的にも、先ほど言った日英同盟があったという事実からも、イギリスにしたらとてもしっくりしましたし、この選択は間違っていなかったなど一人で思いました。

以上の事をプレゼンでも伝えたかったのですが、当日私は居なくてできなかつたのが酷く悔しいです。私は最初、修学旅行で広島に行く事も、平和学習をする事も、小学校で一通りやりましたのであまり乗り気では無かったのですが、今ではこんなにも平和について、戦争の恐ろしさや、命が如何に尊いかを伝えたいと思っているのですから、この平和学習は私にとってとても良い経験になったのではないかと思います。

振り返り

修学旅行に行ってから約3ヶ月が経った今、広島に足を踏み入れたことで感じた思いや、ピースボランティアの方のお話を聞いて感じたものが、どこか薄れてしまっているように感じていました。戦争は忘れてはいけないものだと分かっていながらも、自然と日常を当たり前に感じてしまい、無意識に平和学習との距離を取っていた気がします。小学生に広島で体験したこと学んだことを伝える、ということで、多くの戦争に関する記事を読み、改めて平和学習の大切さを思い出し、新聞づくりに積極的に取り組みました。新聞記事を探していると、興味を惹かれるものばかりで、どの記事の内容も小学生に伝えたいと思いましたが、理解しやすい、身近な内容のものに絞って新聞を作成するようになりました。

小学生の時期は、まだ戦争の知識も少なく、知らないこと、わからない事でいっぱい、なかなか自分から調べることもなく、そのまま通り過ぎてしまいがちなのかなと思います。なので、私たちが分かりやすく、丁寧に伝え、一緒になって平和学習を行えば、小学生の気持ちに変化をもたらす事ができる、そう思いました。今回私達の新聞を通して沢山知識を増やし、少しでも自分の中に変化を感じてもらえたならなという思いで新聞づくりをしました。私は当日残念ながら、小学生に直接伝えることはできませんでしたが、サブの記事を協力して作ったり、最低限私に出来ることとして、思いを言葉で伝えられない分、心を込めて編集後記を書きました。そこで、「自分の経験を他者に伝える」ということの大切さを感じました。ですがやはり、言葉で伝えないと自分の気持ちは正しく相手に伝わらないので、これから先、自分の経験を誰かに伝える機会や、自分の言葉で発表する機会がある時には、その貴重な機会を大切に、積極的に挑戦してみようと思います。

平和学習全体を通して、中3という大切な、思い出に残る一年間に、決して避けて通ってはいけない戦争、人間が犯した過ちと向き合ことができ、本当に良かったと思います。この一年間、数々の平和学習で得た知識を、これから生きていく中で必ず意味のあるものにしよう、という思いでいっぱいです。そして、間違いや失敗を恐れずに当時のことを伝え、私たちに与えられた「受け継ぎ、あのような過ちを二度と繰り返さない、平和な世界を作る」という使命を、全うしたいと思います。

今回小学生に向けて戦争についての新聞を作るにあたって、正直伝えるという行為の難しさを感じました。実際に自分で平和について考えることができても、それを言葉にするのは大変で、そして小学生に分かりやすく伝えるのはとても難しかったです。

今回の新聞作りでは、戦争について書かれた記事を読み、その要約や感想を書きましたが、新聞記事の中には難しい表現がたくさんあって、簡単な表現に言い換えることが求められました。私は平和の伝承の記事について読みました。その記事を分かりやすく伝えるのは大変で、たくさんの苦労をしましたが、分かりやすい言葉に置き換えたことで、より同学年にも伝わりやすい新聞になったかなと思います。

しかし、分かりやすく言葉を噛み砕いているうちに、とても文章量が多くなってしまうなんてこともあります。それをまとめるのも大変でした。

そして私はこの記事作りで、記事の原稿作り、そして発表用の原稿作りを行いました。また、友達と新聞のレイアウトと担当の割り振りを考えました。

新聞を作るときにいつも困るのが、記事の割り振りとレイアウトです。実は、記事の原稿を作るよりも、こちらの方が時間がかかりました。しかし、見やすくなるようにと考えたことで、読みやすくできたかなと思います。

私は、自分が担当した記事において、伝えたかったことがあります。

それは、私たちが戦争について語り継いでいかないと、この悲惨な出来事は人々の記憶に残らなくなってしまうかもしれないということです。

这一年間、たくさんの平和学習をしてきた中で、正直興味が出てきたことはあまりありません。戦争について学ぶことは決して楽しくないし、面白いことでもありません。それでも学ぶのは、きちんと狙いがあるからだと思います。そして私は、これらを学ぶ狙いは私たちに平和について考えるきっかけをもって欲しいということだと考えています。実際に興味が出てきたわけではないけれど、今は平和学習をすると言われたら、すぐに「平和ってなんだろう」などと考えられるようになりました。小学生で平和学習した記憶は私自身あまりないので、小学生のみんなには、今のうちから戦争や平和についてたくさんの知識をもっていてほしいなと思っています。そして中高生になったとき、平和学習に意欲的に取り組めるようになってほしいなと思っています。そして、今回、私がどうしても記事の中に盛り込みたかった話があります。それは先生が授業中におっしゃった言葉です。私たちは直接被爆者の方々のお話を聞ける最後の世代だということ、そして、記憶は伝えないと消えてしまうということです。今までの平和学習で1番印象に残った文章でした。その言葉はぜひ小学生のみんなにも伝え、頭の片隅にでも残ってくれればいいなと思って、この文章は発表原稿にも入れました。

この新聞を作るという活動において、改めて新聞を使うという大切さを学びました。新聞は本当に教科書のようで、私たちが知らない出来事も分かりやすくまとめてあります。普段の授業だけでは気づかない、平和の考え方やインタビューを読んで、自分の考えを持ち、言葉にすることことができたように思います。

普段は新聞を読むより、ネットニュースやテレビで情報を知ることが多いですが、新聞にはそれよりもっと多くの正確な情報が載っているので新聞もこれから読んでいきたいと思います。

平和学習は本当に長くて、結構大変でしたが、これらを学校で行うことによって、戦争や平和に対する幅広い知識が得られたと思います。なかなか自分からしようと思わない平和学習ですが、学校でやるとみんなが一齊に知ることができるので、みんなで平和について色々と考えられるようになったかなと思います。平和学習を終えた今も、世界が平和になるにはどうしたらいいのかという問い合わせは見つかっていません。しかし、この経験を通して、私なりにこれからも答えを見つけていきたいなと思います。

☆.*°自分の行った作業の内容とその評価☆.*°

- ・私は今回の新聞作成で「小学生に伝えたいこと」について書きました。
私たちが広島への修学旅行で学んだことを小学6年生にわかりやすく説明するために試行錯誤しつつ文
章を構成していきました。
個人的には伝わりやすいように書くことができたけれど、小学生がそれを読んでどう感じたのかがわ
からないので心配です…。

☆.*°自分のねらいや意図☆.*°

- ・小学生には私たちの世代が未来に過去の話を語りついでもらう重要な存在だということ、過去のこと
だからと言って他人事にしてはいけないということを伝えました。
私が伝えたかったことが十分に伝わっているかはわかりませんが、少しでも小学6年生に伝わっていると
願っています。

☆.*°「伝える」ことの成果と課題について☆.*°

- ・伝えることの成果はかなり手応えがあったように感じました。
今回は直接ではなく、ZOOMを使っての交流会だったので、実際に小学6年生の前で目を見て発表をす
ることはできなかったけれど、真剣に聞いてくれていたような気がするので、よかったです。

☆.*°平和学習全体を振り返ってみて☆.*°

- ・中学3年生での平和学習では、総合で「実際に被ばくされた方からのお話」を聞いたり、理科では「核兵
器」などに関するプレゼンをしたり、国語でも戦争中のお話を読んだりなど、各授業で平和学習を行って
きました。
私たちは戦争も経験していないし、実際にお話を聞いたりする機会も少なく、過去に起きた出来事を正し
く知ることができていなかったけれど、近藤さんのお話を聞くことができ、正確な事実を知ることができ
ました。この経験を忘れずに生きていきたいと思いました。